



Data	
監督・脚本:	デヴィッド・ミショッド
出演:	ティモシー・シャラメ/ジョエル・エドガートン/ロバート・パティンソン/ベン・メンデルソーン/ショーン・ハリス/トム・グリーン=カーニール/リリー=ローズ・デップ/トーマシ・ハーコート・マッケンジー/ディーン=チャールズ・チャップマン/エドワード・アシュレイ

■ショートコメント■

◆ウィキペディアによれば、本作は次のとおりだ。

『キング』（原題:*The King*）は2019年に公開された米豪合作の歴史映画である。監督はデヴィッド・ミショッド、主演はティモシー・シャラメが務めた。本作はウィリアム・シェイクスピアの戯曲『ヘンリー四世 第1部』、『ヘンリー四世 第2部』、『ヘンリー五世』を原作としている。

本作は2019年10月11日にアメリカ合衆国で、25日に日本で劇場公開された後、同年11月1日にNetflixで全世界配信される予定である^{[2][3]}。

これを読むと、こりゃ必見！

◆『ヘンリー五世』と題された映画は、ローレンス・オリヴィエが主演した「1945年版」と、ケネス・ブラナーが主演した「1989年版」の2つがあり、いずれも厚重な名作だ。

また、シェイクスピアの戯曲を基に、英国の王冠をめぐる争いを豪華キャストで描いたBBCのミニドラマシリーズ『嘆きの王冠 ホロウ・クラウン』を劇場公開した『嘆きの王冠 ホロウ・クラウン ヘンリー五世』（12年）もあるらしい。7つのエピソードのうちの第4話となる同作では、トム・ヒドルストン演じるヘンリー5世のフランス遠征から死までを描いたものだ。さらに、シェイクスピアの第1幕から第5幕までの舞台もある。

さあ、それらに比べて本作の出来は？

◆15世紀のイングランド王国やフランク王国の兵士たち全員の鉄の鎧は重厚そのもの。日本の戦国時代では、大将たちごく一部の者だけが美しい鎧兜を身につけていたが、ヨーロッパではさすがにすごい。もっとも、中国では紀元前2世紀の秦の時代から兵士の鎧は重装備だったから、ヨーロッパよりも中国の方がさらに上・・・？

それはともかく、本作のハイライトのイングランド王国 v s フランク王国の決戦では、その重装備の是非がテーマになるので、それに注目！

◆大将同士1対1の決闘で戦争の行方を決めるのは、ある意味で合理的。なぜなら、それによって多くの兵士が死亡を免れることができるからだ。本作では、そんなシーンが2度登場するが、その勝者は？そして、その結果は？

シェイクスピアの原作を読んではより理解が深まるだろうが、読んでいなくても十分ストーリーは理解できるし、戦闘シーンも迫力があるから楽しめる。他方、中国ドラマほど複雑で陰湿ではないにしても、国王の権謀術策ぶりは似たようなものだ。その結果、ヘンリー五世は「勝ち組」となり、最後にはフランクの王女を嫁に迎えて、めでたしめでたしとなったが、それはこの一時代だけだ。

イギリス人のシェイクスピアが、それを自慢げに小説や舞台の題材にしたのは当然だが、現在のイギリスの落ちぶれようを見れば、彼はどう嘆くのだろうか？それはともかく、1週間の限定公開ながらこんな企画を組んでくれた映画館に感謝！

2019（令和元）年10月31日記